

教育格差是正の担い手を目指して
- 学習塾の今日的役割とは何かを考える -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 内村鑑三先生は「後世への最大遺物、デンマルク国の話」(岩波文庫)の中で、人間が死んだ後、後の世の中に遺せるものを5つ挙げた。

お金 事業 著者、(思想)、作品 教育 生き方

お金を遺して尊いものごとに使ってもらうことも大事。
 仕事・事業を遺して人々や社会のお役に立つこと、つまり問題解決にお役に立つことも大事。
 著書や作品を遺して思想・考え方、感じ方を遺すことも大事。
 目の前にいる人や社会の人々を教育することも大事。
 ああ、あの人はあのような生き方をしたのだなと、その人を知る

人に生き方を遺すことも大事。

- (2) 学習塾で塾生への教育サービスの提供を生活の糧とさせて頂いている我々は、自分が死んだ後何を後の世に遺せるのか。内村鑑三先生のお考えが参考になる。

- (3) 世界的大不況、超円高、大消費不況、デフレ、新型インフルエンザ、少子化、国家・地方財政破綻、地球温暖化、失業率増加と「九重苦」の様相を呈する現在、教育格差が蔓延することは不可避と考えられる。このような状況の下で、学習塾は塾生、保護者、地域社会に何ができるか、各々の問題解決のためにお役に立てるかを真剣に考え、自らの社会的責務を果たしたい。

2. 教育格差是正のために

- (1) 最も大切なことは、これからの社会で求められる鍵となるような基本的能力(キー・コンピテンシーズ)を確実に身につけさせることだ。

「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」 「多様な集団で交流する能力」 「自律的に活動する能力」
--

- (ア) 学校で教えられる全教科は社会に出てすべて役に立つ。きちんとうんなるほどと「理解」した上で、「音読、書き取り、計算・問題の三大練習」により、正確に身につけること。「練習は不可能を可能にする」。希望校への合格点を取らせるための受験指導の過程で、社会に出てすぐ活用できるまでに学校で習うレベルの知識を確実に身につけさせることは、教育の格差是正の第一歩だ。

- (イ) コンピュータによる情報処理能力も現代社会では絶対に必要。
- (ウ) 各自の得意分野を思い切り伸ばし専門分野とすること。1つだけでなくいくつかの専門分野を持つことを心掛けることも大事。
- (ア) 多様な集団で交流する前提は、相手との共通言語、つまり英語を確実に身につけること。
- (イ) 学年相応の英語力を定期試験対策として、希望校に合格するだけの得点力を受験対策として身につけること。
- (ウ) 同時に、小学生の時代から1年間英語を学んだ塾生には英検5級を、2年間学んだ塾生には英検4級を、3年間学んだ塾生には英検3級を、4～5年間学んだ塾生には英検準2級を、5～7年間学んだ塾生には英検2級を、各々十分に学習させ合格レベルの英語力を身につけさせた上で、確実に取得させることが大切だ。
- (エ) 高校卒業までに2級または準2級を全員に取得させて、はじめて英語を指導したことになる。学習塾で学ぶ塾生はほぼ全員が高校卒業後、大学・短大、専門学校に進学する。その後の就職や上級学校への進学の際には、トーイックやトフルで十分な得点の取得が求められる。
- (オ) 英検2級を高校卒業までに取得した上で、大学等に入学後英語学習に励み、各々を卒業するまでに就職を希望するのであればトーイック600点以上、大学院等に進学を希望するのであればトフル500～550点以上(大学院によっては650点以上)を目指すことが求められる。また、一度就職した後、数年後に転職する場合にはトーイック800点以上が求められる場合が多い。
- (カ) このように「多様な集団で交流する能力」の中で最も重要なのは、異なった言語を使用する人々との間のコミュニケーションの手段としての言語、とりわけ世界の共通語である「英語」を確実に身につけることであると確信する。日本国内では、日本語のみで生活が可能な日本人は、余程意識的に、また、自覚をして英語を学ばないと、英語のスキルは身につかない。我々学習塾が、学校の補習・受験指導・英検指導の3つの指導を一切手抜きせず、徹底的に行うことが求められる。

自律的に活動する能力の前提は、「高い志」と「志を持続すること」、および躰(しつけ)つまり「美しい立居振舞い」と「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづか)」である。

学習塾では誰に遠慮することなく、毎回の授業時間中の一定時間以上、必ず塾生の自覚を促し自律的に活動する能力を身につけさせることが大切だ。私はこの時間を「武者語り」の時間と呼ぶが、ぜひ実行して頂きたい。

語る内容は予めメモし、リハーサルを繰り返し、すべて暗記した上で行うこと。その内容は校正を加えた上で文章とし、まとめて塾生や保護者、地域社会に解説を加えながら配付、浸透を図るべきと考える。

(2)この3つの「鍵になるような基本的能力(キー・コンピテンシーズ)の前提となる2つの能力を意識的に身につけさせることも教育格差是正と直結する。

読書による思慮(深く考えること)、自省(自らを省みること)、省察(リフレクション)も大切な能力である。

(ア)お金持ちの家や国の子どもは学力が高いと言われるが、それは本が買ってもらえて、読書をする機会が多く与えられているからに過ぎない。あまり豊かな家や国でなくても、読書のチャンスに恵まれ、深い読書をする習慣を身につけた人の学力は極めて高い。

(イ)江戸文化は寺子屋で識字が向上したために華(はな)開き、明治維新は藩校で学んだ下級武士によって成し遂げられた。日本の明治維新で活躍した人々を大いに見習うべきだ。

(ウ)読書の中には新聞を読むことも含まれると私は考える。新聞を読んで自らの力で考える力、批判的能力を身につけることも教育格差是正には欠かせない。

小学生は20分、中学生は40分、高校生は60分以上新聞を読んで考えることを大いに奨励したい。

(エ)本や新聞は家庭の中のものだけでなく、学校の図書室や公共図書館、私設図書館のものも大いに活用したい。大学等でも、図書館は市民にも開放している。図書館の活用方法を徹底的に指導することが教育格差是正の第一歩と考える。学習塾としても全力で取り組みたい。

最終的には、「学び方を学ぶ(Learning To Learn)」能力、自己学習能力を自分なりに身につけているか否かで本人の学力は決定される。ならば、教育格差是正のために「学び方を学ぶ」能力を全塾生に身につけさせることを、学習塾でも塾をあげて行おうではないか。

3. おわりに

(1)民間教育機関である学習塾が地域の発展と塾生の人生の成功のために何ができるかを、教育格差是正という観点から考えた。

(2)目の前にいる塾生の数は少ないかもしれないが、1つ1つの校舎、1つ1つの塾が力を合わせれば必ず地域の教育格差は是正され、日本全国の学習塾が立ち上がれば学習塾の力で教育格差は是正される。

(3)2010年を迎えるにあたって、塾生の、また、社会のお役に立つため、つまり塾生や社会の問題解決のため全力を尽くそうではないか。

- 2009年12月15日 -

- 羽田 - 富山空港上空にて記す -